

おわりに

本校は、県内唯一の知的障害教育部門と肢体不自由教育部門の併置校であり、児童生徒一人一人の実態や障害特性は様々ですが、将来の自立と社会参加に向けて子供たちの可能性を精一杯伸ばすことを念頭に、日々の教育活動を展開しております。

その中で、本校の学校経営方針の中に「めざす教師像」として、『①子どもに寄り添い、子どもとともに歩む教師、②専門性を高め、成長し続ける教師、③保護者や地域から信頼される教師』という、3つの教師像を掲げています。児童生徒の人権を尊重し、障害特性を理解して寄り添い、謙虚に、そして誠実に児童生徒とともに歩み、子供たちの成長や日々の少しの変化にも、親身になって一喜一憂する教師であり続けたいという思いを全職員で共有しています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的な臨時休業措置という状況で登校することができず、自宅やデイサービス等での活動を余儀なくされた期間もありましたが、こういう時こそ児童生徒に寄り添い保護者に信頼されるために常に教育公務員としての使命を自覚し、絶えず研究と修養に努めなければなりません。その結果、教師としての専門性を高め、子供たちをはじめ、保護者や地域からも信頼される教師となり、認められ愛される学校になると考えております。

さて、平成30年度から、『「社会に開かれた教育課程」の検討 ～基本的な考え方の整理と指導内容等の検討を通して～（三年次）』という全体研究テーマで研究に取り組んできました。この研究では、『「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、本校の基本的な考え方を明確にし、「育成すべき資質・能力」を身に付けさせるための指導内容等を整備する』ということを目指しています。一年次の取組については、本編をご覧くださいとなっておりますが、二年次には、過年度に作成した『卒業後の生活を見通した必要な力』一覧表』とともに、今年度作成した、「単元別指導計画表」を運用していく中で、「育成すべき資質・能力」や本校の「育てたい力」を加味した授業計画と目標設定、評価の在り方等の検討及び主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりを研究してまいりました。研究をとおして、日々の教育活動を積み重ねることで、職員の専門性を維持・向上し、それが本校の教育力になるとともに、児童生徒にとっては将来の社会生活に必要な力となり、社会と繋がることでより豊かな生活に結びつくことになると信じております。

本校の研究を進めるにあたり、今年度は、長崎県教育センター「川波 寿雄」研修部副部長に「特別支援学校におけるカリキュラムマネジメントについて」と題して御講義を賜り、本校全職員が新学習指導要領の趣旨やキャリア発達との関係などについて、理解を深めることができました。また、関係の皆様からたくさんの御助言をいただきましたことも併せて感謝申し上げます。

最後になりますが、「単元別指導計画表」の活用をとおしてより実践的なものにしていきたいと考えておりますので、この研究のまとめを御一読いただいた皆様には、忌憚のない御意見・御助言をいただくと幸いです。

長崎県立佐世保特別支援学校 副校長 石橋善仁